



「直吉メモ」諸写本の比較研究

—明治期の日本楽器製造のピアノに関する記録について—

Pianos manufactured by Nippon Gakki Co. during the Meiji Period:

A Comparative Study of Various Manuscripts of "Naokichi Memo"

キーワード：山葉直吉、ピアノ、日本楽器製造、ヤマハ、製造番号、ピアノ製造出荷考

contents

筆写者不詳「ピアノ製造出荷考」(影印)	p. 1～24
1. はじめに	p. 25～26
2. 「直吉メモ」原本と中谷本(写本)の成立	p. 27
3. 4点の「直吉メモ」	p. 28～32
4. 筆写者不詳「ピアノ製造出荷考」解説	p. 33～37
参考文献	p. 38
附録資料：	p. 39～45
筆写者不詳「ピアノ製造出荷考」に基づく製造番号順のピアノ一覧(～明治40年)	

奥中康人 OKUNAKA, Yasuto

静岡文化芸術大学文化政策学部教授

木崎高宏 KIZAKI, Takahiro

ヤマハ株式会社コーポレート・コミュニケーション部

発行日：2024年6月30日

\* 本ワーキング・ペーパー・シリーズは、静岡文化芸術大学の研究成果をワーキング・ペーパーの形式で公表することを目的とする。ワーキング・ペーパーの著作権等は著者に帰属し、その許可なく内容の転載や複製等は認められない。



# ヒアノ製造出荷券

ヒアノ之製造、最初山重社長ニ創設せられ明治廿三年頃  
 刊行せられたヒアノは最初研究的製造の故に  
 会社として別々台帳をたてたるが為自分一最初刊行社長より  
 採収した際の便にたしめたる為一々帳を控へ置きたりよして  
 昭和六年西明治四拾年此帳へ轉記せられた依て頗る不正確  
 なる事を受たす

明治三十七年六月発行 金九百圓

- 巻号 一五四一
- " 一五四二
- " 一五四三
- " 一五四四
- 終号 一五四五
- " 一五四六
- 外巻号 一五四七
- " 一五四八
  
- 七月
- 八月 一五四九
- 八月
- 巻号 一五五〇
- 巻号 一五五一

金五百圓

金七百圓

頃  
川  
之  
石  
室

九月  
四号  
拾壹号  
拾貳号  
拾参号  
拾肆号  
拾伍号  
拾陆号  
拾柒号  
拾捌号  
拾玖号  
廿号  
廿一号  
廿二号  
廿三号  
廿四号  
廿五号  
廿六号  
廿七号  
廿八号  
廿九号

- 五五二  
- 五五三  
- 五五四  
- 五五五  
  
- 五五七  
- 五五八  
- 五五九  
  
- 五六〇  
- 五六一  
- 五六二  
- 五六三  
- 五六四  
- 五六五  
  
- 五六六  
- 五六七  
- 五六八  
- 五六九

金壹千五百圓

梨地塗

金壹千〇五拾圓

金貳千三百圓

金二百七拾圓

巻号	一九七〇		
〃	一九七一		
〃	一九七二		
〃	一九七三		
〃	一九七四		
此後各控七年下半期製造書			
巻号	拾五帖	金四、八〇〇円	①300
式号	巻帖	金一、〇〇〇円	350
巻号	五帖	金二、〇〇〇円	400
回号	式帖	金一、〇〇〇円	500
計廿五帖		金八、九〇〇円也	
明治二十八年巻月		金六、四〇〇円	
式号	一九七五		
巻号	一九七六		
〃	二月	金六〇〇円	
巻号	一九七七		
〃	一九七八		
〃	三月	金六〇〇円	
巻号	一九八〇		
式号	一九七九		
〃	四月	金六、四八〇円	
巻号	一九八一		

0  
0  
0  
0  
0

号	号	一九八二
号	号	一九八三
四	号	一九八四
式	号	一九八五
号	号	一九八六
号	号	一九八七
号	号	一九八八
号	号	一九八九
号	号	一九九〇
号	号	一九九一

梨地産,

金六百五十円

五月

六月

米園式

金七百円

号	号	一九九二
---	---	------

明治廿八年上半期製造券

号	号	九	台
号	号	四	台
号	号	四	台
号	号	四	台
号	号	四	台
号	号	四	台
号	号	四	台
号	号	四	台

金二七〇〇円  
 金一四〇〇円  
 金八〇〇円  
 金二〇〇円  
 金五〇〇円  
 金七〇〇円  
 金六六〇〇円也

計廿八枚

5

明治廿八年七月

〇クワトキ号  
九月

一九九二

金七〇〇円

号

一九九四

金五十四百円

々

一九九五

々

一九九六

々

一九九七

々

一九九九

四号

一九〇〇

梨地堂

号

一九〇一

号

一九〇三

々

一九〇五

々

一九〇四

拾月

金二千八百円

号

一九〇五

々

一九〇六

々

一九〇七

々

一九〇八

々

一九〇九

廿号

一九一〇

々

一九一一

号

一九一二

松島用	号	一	一	二	全卷千五百四
	号	一	一	四	
	号	一	一	九	
	号	一	一	七	
	号	一	一	〇	
	号	一	一	一	
	号	一	一	二	
	号	一	一	二	
	号	一	九	八	
	号	一	一	八	
特別 松島用	号	一	一	一	
	号	一	一	四	
	号	一	一	九	
	号	一	一	一	
	号	一	一	二	
	号	一	一	二	
	号	一	一	二	
	号	一	一	五	
	号	一	一	七	
	号	一	一	九	
A号	号	一	一	〇	

式	号	一	五	二	一
卷	号	一	五	一	九
々		一	五	二	七
々		一	五	二	八
卷	号	一	五	二	四
々		一	五	二	三

昭和30年表4修理

昭和二十八年下期製造書

卷	号	廿	一	名
式	号	五	名	
卷	号	五	名	
四	号	一	名	
五	号	一	名	
特別	卷	一	名	
日	号	一	名	

計四拾五名

昭和廿九年表式月

B	卷	号	一	五	二	七
々			一	五	二	九
々			一	五	二	八
々			一	五	四	〇
々			一	五	四	八
々			一	五	四	九

金	矢	卷	〇	〇	円	
金	系	七	五	〇	円	
金	式	〇	〇	〇	円	
金		五	〇	〇	円	
金		一	五	〇	円	
金		一	四	五	〇	円
金		一	七	〇	〇	円
金		九	一	五	〇	円也
金		五	〇	五	〇	円



7

B	20号	一 百 四 一	
	7	一 百 四 二	
	7	一 百 四 三	
	卷号	一 百 四 四	
	7	一 百 四 五	
	7	一 百 四 六	
	五号	一 百 四 七	五五〇四
巻	月	九号	五〇〇四
	七号		全四ヶ巻百四
	七号	一 百 五 〇	
	7	一 百 五 一	
	7	一 百 五 二	
	7	一 百 五 三	
	7	一 百 五 四	
	7	一 百 五 五	
	7	一 百 五 六	
	7	一 百 五 七	
	7	一 百 五 八	
	7	一 百 五 九	
	7	一 百 六 〇	
	7	一 百 六 一	
	7	一 百 六 二	
	7	一 百 六 三	
	7	一 百 六 四	
	7	一 百 六 五	
	7	一 百 六 六	
	7	一 百 六 七	
	7	一 百 六 八	
	7	一 百 六 九	
	7	一 百 七 〇	
	7	一 百 七 一	
	7	一 百 七 二	
	7	一 百 七 三	
	7	一 百 七 四	
	7	一 百 七 五	
	7	一 百 七 六	
	7	一 百 七 七	
	7	一 百 七 八	
	7	一 百 七 九	
	7	一 百 八 〇	
	7	一 百 八 一	
	7	一 百 八 二	
	7	一 百 八 三	
	7	一 百 八 四	
	7	一 百 八 五	
	7	一 百 八 六	
	7	一 百 八 七	
	7	一 百 八 八	
	7	一 百 八 九	
	7	一 百 九 〇	
	7	一 百 九 一	
	7	一 百 九 二	
	7	一 百 九 三	
	7	一 百 九 四	
	7	一 百 九 五	
	7	一 百 九 六	
	7	一 百 九 七	
	7	一 百 九 八	
	7	一 百 九 九	
	7	一 百 一 〇 〇	

9

四月

全巻十四

巻号

一五三〇

々

一五三一

々

一五三二

々

一五三三

式号

一五三八

々

一五三九

々

一五七〇

々

一五七一

五月

全五百年

式巻号

一五八九

六月

全巻八百年

巻号

一五六六

々

一五六七

々

一五七五

式号

一五七二

々

一五七三

巻号

一五八一

々

一五八九

口 何れ? 巻号

一五七四

口 A 々

一五八八

9

所出巻九年上半年期製造書

巻号	拓行名	金四、八〇〇円
試号	拓行名	金九、八五〇円
巻号	拓行名	金四、四〇〇円
五号	巻号	金五、五〇〇円
〇 試号	巻号	金四、四〇〇円
エス 巻号	試号	金三、〇〇〇円
計 四 拓 四 名		金一六、七〇〇円也
七 月		金七 百 円

試号	一 六 八 〇	
〃	一 六 八 七	
八 月		金 四 千 四 百 円
五号	一 六 七 六	
巻号	一 六 九 〇	
四号	一 七 〇 五	

九 月 金 四 千 七 百 五 十 円

〇 試号	試号	B 一 六 八 八	新公一依の行りりりり
	五号	一 六 七 七	
	〃	一 六 七 九	
	試号	一 六 九 六	
	巻号	一 六 九 一	
	〃	一 六 九 二	

十月

金四千五百部

- 巻号 一六七八
- 〃 一六八二
- 〃 一六八三
- 〃 一六八四
- 〃 一六八五
- 〃 一六八六
- 〃 一六八九
- 〃 一六九〇
- 〃 一七〇二
- 〃 一七〇三
- 〃 一七〇七
- 〃 一七〇〇
- 〃 一七〇四

十一月

金四千部

- 巻号 一七九九
- 〃 一七〇一
- 〃 一七〇四
- 〃 一七一九
- 〃 一七一七
- 〃 一七二〇
- 〃 一七一二

五号 一七一二

改五号 一七一〇

〃 一七一

十二号

全五十六万部

五号 一七一八

〃 一七二五

〃 一七二六

改号 一七二七

〃 一七二八

卷号 一七一六

〃 一七二一

〃 一七二二

〃 一七二三

〃 一七二四

〇 改号 卷号 一七〇七

〇 〃 卷号 一七〇八

明治九年下中製 造書

五号	改号	卷号
五号	九	卷号
五号	九	卷号
四号	五	卷号
五号	改号	卷号

全六〇〇〇部
全二一五〇部
全二六〇〇部
全一五〇〇部
全一一〇〇部

改訂 五号  
 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇

改訂 五号  
 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇

金一、二〇〇 兩  
 金一、七〇〇 兩  
 金一、〇〇〇 兩  
 金一、五〇〇 兩

計四拾五卷  
 里計五月的  
 以四拾年  
 五月

金五万八千五百五十年也

金三萬二千二百兩也

金五千五百九十兩

- 卷号 一七二五
- 卷号 一七二四
- 〃 一七二三
- 〃 一七二〇
- 卷号 一七二六
- 卷号 一七二九
- 〃 一七四二
- 〃 一七四一
- 引号 一七二〇
- 〃 一七二九
- 〃 一七二二
- 卷号 一七二七
- 〃 一七二八

13

五月

此号 一七五二

々 一七五三

々 一七五四

卷号 一七四五

々 一七四四

々 一七四三

々 一七四二

此号 一七四一

卷号 一七四〇

九・此号 一七三九

卷月

卷号 一八〇七

々 一八〇八

々 一七五一

四号 一七一四

卷号 一七五七

此号 一七六四

田

卷号 一七五五

々 一七六六

々 一七七八

全六千八百五十年

卷号 一七五八

卷号 一七五九

此号 一七六〇

々 一七六一

卷号 一七五〇

々 一七五一

全四千七百七十年

卷号 一七五七

此号 一七〇七

此号 一七三一

卷号 一七六九

々 一七七〇

全五千三百年

卷号 一七七四

々 一七七五

々 一七八〇

レ

15

卷号 一七六五  
 〃 一七六七  
 〃 一七七一  
 〃 一七七二  
 〃 加部 卷号 一七七八  
 〃 〃 〃 一七七九

五月

全五千五百三十部

特製 卷号 一七七六  
 〃 一七七七  
 〃 一七八四 田老器字校論記  
 〃 一七八五 卷号  
 〃 球号 一七九二 〃  
 〃 一七八七 〃  
 〃 一七八八 〃  
 〃 一七八九 球号

一七七三  
 一七八一  
 一七八二  
 一七八三  
 一七九〇  
 一七九一

六月

全五千六百四拾部

〃 卷号 一八〇一 加部 卷号 一七九八  
 〃 〃 一八〇二 〃 一七八六  
 〃 〃 一八〇三 加部 球号 一八〇四  
 田号 一七九〇 球号 一七九〇

又三ノ江一様造モテル一八〇九上記ノヲ様造ニシテ  


---



明治四十年上半期製造方

巻号	二四巻	金七九二〇円
改号	一八巻	金六八四〇円
巻号	二〇巻	金八六〇〇円
四号	二巻	金一一〇〇円
巻号特	三巻	金一五〇〇円
(96)巻号	六巻	金四五〇〇円
(92)改号	二巻	金三二〇〇円
9 スリッパ-モデル	一巻	金八〇〇円
訂 七十巻		金三六四七〇円也
七月		金四百計円
九月	巻号 一七九二	金七百五十円
十月	(改号) 一八二一	金五四百八十円
	巻号 一八二九	是ハ何分仕上リ
	改号 一七九四	巻号 一八〇三
	〃 一七九〇	〃 一八一五
	〃 一七九六	〃 一八一四
	〃 一七九九	〃 一八二一
	〃 一七九七	
	巻号 一八〇九	

下期  
(6)

拓 巻 月

全 六 千 四 百 拓 紙

巻 号 一八五〇

号外ニテ内容ハスチルエーモ子ル外部ハ五号白耳葺ア小ロツボ下ウイフエノビ一タロレ  
注又分

大 陸 巻 号 一八五七

式 号 一八二二

〃 一八六一

〃 一八二八

〃 一八一三

〃 一八二六

〃 一八一五

〃 一八〇〇

〃 一八一八

四 号 一八一九

〃 一八一六

〃 一八二〇

〃 一八一七

少 外 巻 号 一八二五

拓 式 月

全 六 千 九 百 十 紙

特 製 巻 号 一八六〇 之ハ 益 田 石 時 記 又 十 一 材 空 假 金 田 百 紙 様 子 付

号 外 式 号 一八一〇

五 号 一八四四

巻 号 一八五一

〃 一八四七

〃 一八二七

〃 一八四九

〃 一八二六

〃 一八五一

〃 一八二三

〃 一八四二

〃 一八四三

〃 一八四〇

上 33,480

18,080

田舎割 51,540

一台 440

18

昭和四年下期製造高

巻号 一 七 巻

全田 = 九〇 冊

二 九 巻

全二田 = 〇 冊

三 九 巻

全三田七〇 冊

四 二 巻

全一田一〇 冊

五 四 巻

全二田〇〇 冊

竹製オコ巻号 一 巻

全四〇〇 冊

(42)の巻号 二 巻

全一田〇〇 冊

(4)の巻号 二 巻

全一田一〇 冊

計 41 (計117) 計 (計11) 計

全一八、〇一〇 冊

製造出所を地帯毎に

立形小切ノ毎巻

15

此切ハ会社カ切ノ製造ノ部ニテ採種ハ

上海方面ヨリ買入ル(鉄管カ切ノ地)

其ハ全部出所則チ京系系ヲ採ルニ付テハ其地帯益高社ヨリ採種ノ

出所也。中一巻ハ昭和二年採種ノ切也。

カ切ノ切一巻毎

此切ノハ益高社養子ト地上山敬造氏ノ

全田ノ果実カ切管カ切ノ製種及附屬

全部ヲ取寄セ製造切ノユニ付テハカ切ノ切

所此世四年秋田縣柳野町益高社

カ切ノ切也(概算ハ一、〇〇〇ヲ付カケル)



NO. 1500 のハシマリ

117  
111  
102

小平名ハビークラフ - 五 - 四 明治廿五年十一月共益社出版  
 〃 - 〇 - 〇 〃 三拾六年三月  
 小平名ハビークラフ - 五 - 〇 三拾六年六月、三拾六年八月共益社出版  
 〃 - 〇 - 一 三拾六年七月、三十七年十二月三木忠法出版  
 カムモテリ主ビ 一〇〇 - 五 (廿五年一月) 製写一〇〇〇ヲ附加セリ  
 三山藥社長阪東行見本及録有及アクシヨリ買入取行查社行製造セリ  
 カムモテリ主ビ 一〇〇 =  
 〃 - 〇〇 三  
 〃 - 〇〇 四  
 〃 - 〇〇 五  
 〃 - 〇〇 六  
 〃 - 〇〇 七  
 〃 - 〇〇 八  
 〃 - 〇〇 九  
 〃 - 〇 - 〇  
 〃 - 〇 - 〇  
 〃 - 〇 - 〇  
 〃 - 〇 - 〇 三 三拾六年十一月共益社發送  
 〃 - 〇 - 五 五 〃 十二月  
 〃 - 〇 - 三 二 象牙捲 三拾六年十二月  
 〃 - 〇 - 五 〇 三拾六年十一月  
 〃 - 〇 - 二 九 三拾八年三月共益社發送 芝田公明

1,000 台目 1096  
2nd 巻

M. 36/11

M.

カメレモテル主ビツノ	一五二九八	世六十年十一月
ノ	一五二七	ノ
ノ 巻号 (改行入)	一〇二三	世六十年十月
ノ	一〇三四	十一月
ノ	一〇三六	
ノ	一五二一	世六十年四月 三木法政宛リ
ノ	一五二八	世六十年六月 共益社宛リ
ノ	二八五	世七十年二月 系身張リ
ノ	三九五	ノ
ノ	四〇五	ノ

クワレA 巻号 (世六十年)	一五二一	世八十年五月 共益社宛リ
ノ (一月)	一五二五	世九十年二月 三木法政宛リ
ノ		京都高等女学校宛リ
ノ (世七十年六月)	一五二四	世七十年十月 共益社宛リ
ノ (世七十年六月)	一五二八	世八十年一月 送リ
ノ (世七十年六月)	一五二二	世六十年二月 三木法政宛リ

クワレA	三十七年十二月	
巻号	一五二五	三十七年二月 三木法政宛リ
ノ		京都高等女学校宛リ
ノ	一五二七	三十七年一月 送リ
		采女カメレモテル主ビツノ宛リ
		三木法政宛リ

永世崇凡

15-①

M. 35/11

21

グランドA 二十五年十月

号 一五二五

二十五年五月新刊の寄附書に接し  
納の旨を告ぐ

一五二七

二十五年五月

二十五年五月二十九日正木宛の送達

グランドA 号 一五二二

所記二十五年三月開会の際に

大政奉天五年四月内務勸業博覧会

出品として二十五年九月の勸業博覧会

出品

右記の出品中大正四年の勸業博覧会出品として出品し、充実に努むる

所記二十五年九月去の管内勸業博覧会出品として出品し、再掲の上納送す

「スラエ」(小形) グランドA (一五二二) の抽出十年四月廿七日社務

出の寄附書に接し、受入るるモノ、金一五〇〇円

「グランドA」(大形) 灰土製板に「グランドA」極小字を印すモノ、金四五百円

「立形」(二〇二四) 米谷カミヤ製板に「立形」極小字を印すモノ、金六百二十円

「小形」(二二二) 佛土製板に「小形」極小字を印すモノ、金七百円

由印の古本に要す

「形」(附録) の「形」(二二二) 佛土製板に「形」極小字を印すモノ、金七百円

備忘

昭和二十三年	切	製造者	八名	金七〇〇円
〃 二十四年	〃	〃	六名	金三六〇〇円
〃 二十五年	〃	〃	八名	金三〇五〇円
〃 二十六年	〃	〃	二一名 (31)	金九四〇〇円
右八正雄地吉款持局同知務懇刊				
昭和二十七年	〃	〃	二十七名	金一三、四〇〇円
〃 二十八年	〃	〃	六五名	金一四、八〇〇円
〃 二十九年	〃	〃	(百台) (200)	金二五、二〇〇円
昭和四拾年	〃	〃	〃	(改正前) 伍拾)
昭和 〃 号	〃	〃	〃	金五、二〇〇円
〃 〃 〃 号	〃	〃	〃	金五、八〇〇円
〃 〃 〃 号	〃	〃	〃	金四、五〇〇円
〃 〃 〃 号	〃	〃	〃	金五、五〇〇円
〃 〃 〃 号	〃	〃	〃	金六、〇〇〇円
昭和 〃 号	〃	〃	〃	金七、五〇〇円
〃 〃 〃 号	〃	〃	〃	金一、一〇〇円
〃 〃 〃 号	〃	〃	〃	金一、三〇〇円
昭和 〃 改正入				

明治四年四月

米本大工の工一公社の到第、十开のクワレセのハ平先呼ノ改修、資以信入レ  
 目的、山菜社長が特ニ買入ル共ハケルヨレ、之ヲ因テ直ニ解体シテ大ニ得  
 ル所アリ、自今ハ早建又ハ模造、準備ニ取掛リ、一ニ専心同ニ此ノ事、  
 製造ノバク努力ニ断クニシテ、良材トモト共トモ、山菜社長モ非常  
 ニ此ノ方面、行キテ、其益者社、アノトセ、ノ、  
 此ノ書ヲ出テ、行キ、  
 先ハ別状切到着セラル所、從前ノ事トテ、頃及、  
 其益者社、ノ、  
 殊ニ、  
 金一十月以上、  
 山菜社長、  
 上、  
 努力、

(完)



技課長  
55.5.20  
鈴木

19  
2  
1  
4  
+

21  
19  
x  
10

## 1. はじめに

明治33年（1900）1月に始まったとされる日本楽器製造株式会社（現ヤマハ株式会社、以下「日楽」と略記）によって製造されたピアノは<sup>1</sup>、オルガンとともに、浜松における楽器産業の中核を担った。しかし、初期ピアノ製造について残された資料は極端に少なく、よく分からないことが非常に多い。第二次世界大戦による関連資料の焼失は大きいですが、浜松が自身の身近な楽器製造の歴史にあまり興味・関心を持ってこなかったことのほうが深刻かもしれない。

それはともかく、不明な点が多い初期の日楽ピアノ製造の実態を明らかにする数少ない資料の一つとして、明治40年（1907）までに製造された日楽ピアノの製造番号や出荷に関する記録—山葉直吉が残した「直吉メモ」<sup>2</sup>—が存在することが、以前より知られている。

檜山陸郎は『ミュージックトレード』の連載「ピアノものがたり」（1981年7月号（p. 74））で、次のように述べている。

…ヤマハピアノに関連して、稀有ともいうべき貴重な資料が残っている。「山葉直吉メモ」である。山葉直吉（一八八一～一九三八）は、日本楽器製造株式会社（明治三〇年＝一八九七年創立）の創業者である山葉寅楠（一八五一～一九一六）の姪と養子縁組、山葉姓（旧姓尾島）を名乗ったピアノ製作者であるが、今日の日本のピアノ製造の（技術の）祖といわれる人である。山葉寅楠は、会社の経営の総帥ではあったが、自らピアノを製作する匠の人ではなかった。ピアノの匠は山葉直吉であり、その弟子に河合小市（一八八六～一九五六＝現株式会社河合楽器製作所の創立者）があつて日本のピアノの源流を為した。山葉直吉が、「ピアノ製造出荷考」と題するノートを残している。明治四〇年のある時、心覚えの手帖から転記したことが記述されている。しかし現存の「山葉直吉メモ」は、その原本ではなくて、後に中谷孝男（一八九三～一九七七）夫人が転記したものが残っているのみで、原本は焼失したといわれている。<sup>3</sup>

檜山の他にも、上記引用文にも登場するピアノ調律師の中谷孝男やピアノ産業史を調査研究した大野木吉兵衛（1922～2000）も、著作のなかで「直吉メモ」に言及し、部分的にその内容を紹介してきた。しかしながら、かれらは「直吉メモ」のデータを部分的に紹介

---

<sup>1</sup> 日本におけるピアノ製造は、明治10年代中ごろから、横浜でクレーン、カイル、ドーリングらがピアノを組み立てたことに始まる（『製造元祖横浜風琴ものがたり』p. 12～13）。その後、西川虎吉（明治19年）、山葉寅楠（明治23年）がピアノを試作するが、日楽（ヤマハ）はピアノ製造の開始をアメリカで製造機械や部品を買い付けた直後の明治33年としている（日本楽器製造株式会社『社史』p. 21～22）。

<sup>2</sup> 「直吉メモ」の他に、「山葉直吉手帖（手帳）」「ピアノ製造出荷考」など、呼び名は定まっていないが、本稿では「直吉メモ」とする。

<sup>3</sup> 檜山陸郎『洋琴ピアノものがたり』（p. 95）にも同じ文章が掲載されている。

しても、データのすべてを公開する機会をもたなかったため、かれらが亡くなった現在、わたしたちは「直吉メモ」の全内容を知ることができなくなっているのである。また、後述のとおり、過去に日楽の社員が手にしていたことは確認できており、部分的な内容の複写も残っていたのだが、全内容が確認できる資料は残念ながら現在のヤマハ株式会社の社内からも発見できていない。この現状は、日本におけるピアノ製造史研究の進展を阻む大きな障壁となっている。

本稿の筆者（奥中・木崎）を含む研究グループ<sup>4</sup>は、数年前より日本のピアノ製造業に関連する資料等を収集する作業を継続しており、その過程で複数の「直吉メモ」を閲覧する機会に恵まれた。もちろんこれらは写本で、それぞれの内容も異なっているが、それでも明治期のピアノ製造史にとって重要な資料である。そこで、本稿は、複数の諸写本を比較検討したうえで（p. 25~38）、直吉による原本に最も近いと思われる筆写者不詳の「ピアノ製造出荷考」（以下、筆写者不詳本と記す）の全頁（影印）（p. 1~24）を掲載し、そこに掲載されているピアノ約 340 台を製造番号順に並べたリスト（p. 39~45）を併録する。これにより、明治期ピアノ製造史研究に資する重要な基礎資料を提供できると考えている。

もっとも、本研究チームが把握できていない写本の「直吉メモ」が、まだ他にも存在するかもしれない、不完全なデータを含んだまま掲載してしまうリスクはある。しかし、より正確な「直吉メモ」の発見を待つよりは、現時点で判明し得る限りのデータを開示することによって得られる利益を優先した。その意味でも、本稿は新しい情報を呼び込むための、文字通りの「ワーキングペーパー」であり、直ちに更新されることを積極的に期待している<sup>5</sup>。

確認できた資料のうち代表的な 4 点の「直吉メモ」は以下の通りである。

- ① 筆写者不詳本 筆写者不詳「ピアノ製造出荷考」
- ② 大野木本 A 大野木吉兵衛「山葉直吉手帳より 中谷氏からの再写」
- ③ 大野木本 B 大野木吉兵衛「山葉直吉手帳より—中谷孝男氏メモ写一」
- ④ 国立音楽大学所蔵本 筆写者不詳「製造出荷 控 山葉直吉先生の手記寫し」

---

<sup>4</sup> 本研究は JSPS 科研費 24K00018 の助成を受けたものです（基盤研究（B）「20 世紀序盤の東アジアにおけるピアノ産業と文化」（代表：小岩信治）。本稿は、2023 年 12 月 22 日におこなわれた研究会における奥中・木崎の発表に基づく。

<sup>5</sup> 「直吉メモ」、明治時代に製造された日本楽器製造（ヤマハ）のピアノについて情報をお持ちの方は、ご連絡ください（<https://www.yamaha.com/ja/>）。

## 2. 「直吉メモ」原本と中谷本（写本）の成立

明治 25 年 (1892)<sup>6</sup>に山葉風琴製造所に入った尾島直吉 (1881~1938) は、初代ピアノ部長として、日楽のピアノ製造において中心的な役割を担った。明治 36 年、山葉寅楠の姪 (寅楠の兄の娘)、はると養子縁組し、山葉姓となる。その後、昭和初期に退社して山葉ピアノ研究所を創設している。

先の檜山の引用文にもあるように、直吉は、初期のピアノ製造について「明治四〇年のある時、心覚えの手帖から転記した」という。この直吉によって転記されたものを「直吉メモ」の原本とする。そして、この原本が「焼失」する前に、ピアノ調律師の中谷孝男が借り受け、「夫人」(中谷花子 (1899~?)) が筆写したと檜山はいう。これを中谷本とする (現在、この中谷本の所在も把握できていない)。

中谷孝男が借り、中谷花子が筆写した時期は、常識的に考えると直吉存命中、つまり昭和 13 年 (1938) 以前と考えられるが<sup>7</sup>、①の筆写者不詳本の冒頭にある文章のなかに、ヒトとなる一文がある。

自分が最初より社長より尋ねられ時の便ならしめる為二手帳の控へ置きしものよりして、昭和六年 否 明治四拾年此帳へ轉記せしたり

檜山は、「明治六年 否」を「中谷夫人の転記の際の誤り」と言う<sup>8</sup>。つまり、中谷花子が写したのは昭和 6 年 (1931) で、年を記すところでうっかり筆が滑って「昭和六年」と書いてしまい、あわてて「否 明治四拾年」と訂正したという解釈である。ただし、どのようにも受け取れる曖昧な文章なので、他にもいろいろな解釈が可能だろう<sup>9</sup>。また、ここで直吉が言っている「社長」も作成時期によってどの社長を指しているのか異なってくる。

---

<sup>6</sup> 『山葉直吉建碑記念帖』(1943) の年譜は「明治二十五年春。浜松板屋町の山葉オルガン製造所に入所す」(p. 1) とあるので、ここでは明治 25 年を採用したが、直吉は「ピアノを初めに製造いたしましたのは、どう考へましても明治二十二年でございましたな。私が明治二十三年の一月の仕事始めの八日に初めて行つたのですが、その時にピアノを拵へて居りました」と語っている (『国産ピアノの創業とその発達を語る』(1937) p. 26)。『山葉寅楠翁』(1929) では「十一才のとき弟子入り」(p. 33) と直吉が述べている。

<sup>7</sup> 中谷は「〔昭和 3 年頃〕東京から浜松へおもむくたびに、〔直吉の家に〕よくおじゃましていろいろお話を伺った。私は、ピアノや音楽界の古い資料を集めていた」「先生のお話や手記は、誠に貴重な記録になった。ヤマハの歴史や技術に関する手記は写ささせていただいて」(『ピアノの技術と歴史』p.163~165) とあることから、昭和 3~13 年頃か。

<sup>8</sup> 檜山陸郎「ピアノものがたり」(p. 75)

<sup>9</sup> 仮に直吉が昭和 6 年に、この冒頭の文章を追加したか、あるいは「直吉メモ」全体を自身で再写したというようなことがあったなら、「昭和六年 否 明治四拾年此帳へ轉記せしたり」は、その時の直吉による記載で、その後の筆写者は、これをそのまま写したのかもしれない。

### 3. 4点の「直吉メモ」

#### ① 筆写者不詳本

全 24 頁、手書。筆者した人物、時期は不明。タイトルの「ピアノ製造出荷考」の上に小さな文字で「之ハ山葉直吉氏ヨリ拝借轉記セルモノナリ」との注記がある。

現時点で筆者（奥中・木崎）の手元にあるのは、大野木吉兵衛が所有していたものを平野正裕氏がコピー機で複写したもので、裏表紙には「P 技課長／55. 5. 20／鈴木」という印が押されているので、日楽の鈴木というピアノ技術課長が昭和 55 年（1980）5 月 20 日に手にしていたことは確認できる<sup>10</sup>。この「P 技課長」印から判断すると、大野木の手に渡ったのは昭和 55 年 5 月以降になる。また、コピー機による複写が何度か重ねられたことがコピーの痕跡から判断でき<sup>11</sup>、あきらかに別人の筆跡（加筆）も複数見られ<sup>12</sup>、p. 18～19 のように元々のノートの領域からはみ出しているものもある。製造番号 **1537**（グランドピアノ）が「米国セントルイス市万国博覧会」に出品されたという箇所（p. 20）には、「永井荷風」と加筆があるが、檜山陸郎は「ピアノものがたり」（p. 308）で、この **1537** を紹介したあと、唐突に永井荷風のセントルイス博訪問に言及しているので、この加筆は檜山陸郎だろうか（そうであれば、筆写者不詳本は檜山陸郎を經由していることになる）。

奈良女子大学が所蔵する日楽のグランドピアノ（通称「百年ピアノ」、製造番号 **1749**）修復に係る書類のなかに、この筆写者不詳本を参照した形跡があり、また三浦啓市の著書『ヤマハ草創譜』『昭憲皇后のピアノ』にも筆写者不詳本と同一の内容が部分的に紹介されているので、ある程度は流通している写本かもしれない。

以下で説明するように、他の 3 種の「直吉メモ」と比べると情報量が圧倒的に多く、記載データも正確のようなので、現時点では原本にもっとも近いと考えられる。そこで、本稿にはこの筆写者不詳本の全頁（影印）を掲載した。

ただし、大野木本 A と大野木本 B の末尾にある「中谷氏ノ memo」（「中谷氏のメモ」）は、筆写者不詳本には存在しない<sup>13</sup>。

---

<sup>10</sup> この筆写者不詳本は、現在ヤマハ社内では確認することができなかった。

<sup>11</sup> この筆写者不明本は、元々は糸綴じのノートに記されている。ノートのサイズは（常に等倍でコピーされていれば）、タテ 23cm、ヨコ 17cm。

<sup>12</sup> 裏表紙には、検印の他に「小山作之助」と逆さまに記されているが、小山作之助（1864～1927）の所有物であったことを示すとは思えない。

<sup>13</sup> 大野木本 B の「中谷氏のメモ」は、「◎ 以下は中谷氏のメモなり。／第三回出品 有効二等賞 3 台／第四回博覧会 京都 進歩二等賞 西川と競争／第五回 豎二台、平一台／樋口氏 明治 23 年 1 月 8 日（直吉入所）／420 円ニテ売ル／大阪 アクション 70— 米 1 升 55 銭 ピアノト改称ス／30—800 ミカゲ／英国 コンサート 横ピアノ オロガン／モートルーオルガン輸出 26 年頃（戦前か）／〃〔モートルー〕 材料輸入 6 台 250 位御買上 レングラホールド・／アクション」とある。これについて大野木は未発表原稿（昭和 30 年代後半頃）のなかで、「この「メモ」を写された中谷氏の後書」と述べている。

筆写者不詳本の構成は以下の通り。詳細は後述する（p. 34 以降参照）。

- p. 1～18：冒頭文、明治 37 年 6 月～明治 40 年の型番、製造番号、半期毎の製造高
- p. 18～21：「製造出荷其他参考控」主に明治 36 年以前（無番ピアノ、カメンモデル等）
- p. 22：「備忘」明治 33～39 年の製造高、明治 40 年の値段改正と改正前の値段
- p. 23：「明治四拾年四月」のエピソード
- p. 24：裏表紙

最初に明治 37 年（1904）から 40 年（1907）までのピアノの記録が並び、次に明治 36 年（1906）以前を扱うという構成は、4 つの写本に共通している。

## ② 大野木本 A 「山葉直吉手帳より 中谷氏からの再写」

26 穴ルーズリーフ 5 頁（大野木吉兵衛の取材ノート：大野木家提供）、手書き。大野木吉兵衛は昭和 30 年代の後半に、山葉寅楠を知る日楽関係者に対して精力的にインタビュー調査をおこなっていたが、これはその取材ノートに含まれている。もちろん中谷孝男は取材対象の一人であり、タイトルに「中谷氏からの再写」とあることから、直接本人から中谷本の提供を受けて「再写」した公算が高い<sup>14</sup>。ただし、大野木の関心は製造台数や製造高にあり、製造番号にはあまり興味をもっていなかったらしく、多くの製造番号をはじめ、いくつかの情報を省いた。それゆえ、データの質・量とも、①の筆写者不詳本には及ばない。ただし、前述の通り末尾には「中谷氏ノ memo」がある。

- p. 1～2：冒頭文<sup>15</sup>、明治 37 年 6～7 月の製造番号（部分）、半期毎の製造高
- p. 2～4：「製造出荷其他参考控」主に明治 36 年以前（無番ピアノ、カメンモデル等）
- p. 4～5：「備忘」明治 33～39 年の製造高、明治 40 年の値段改正と改正前の値段
- p. 5：「明 40/4」のエピソード<sup>16</sup>、「中谷氏ノ memo」

---

<sup>14</sup> 大野木は論文「日本楽器製造株式会社と山葉寅楠の企業者活動」（1966）にも「山葉直吉手帳—中谷孝男所蔵」（p. 61）と明記している。

<sup>15</sup> 大野木本 A の冒頭の文章は「ピアノは始め研究のために製作していたから、会社は台帳を作らなかった。私が念のためメモをとった。明治 40 年に転記したもの。「頗る不正確な事は免れず」と。」とあり、①の筆写者不詳本と比べると、大意は同じだが、かなり省略されている。

<sup>16</sup> 大野木本 A は、「米国 St. Louis ヨリ着イタ小形 G.P ハ…」で始まるが、①の筆写者不詳本は「米国ステンウェー会社ヨリ到着ノ小型グランドピアノハ…」で、大きく異なっている。大野木が参照した中谷本にどのように記されていたかはわからないが（「Steinway」あるいは「ステンウェー」？）、大野木はこれを「St. Louis」と書いてしまった（製造番号 **1537** の説明に「米国 St. Louis」が出てくるので、そう思い込んだ）か。

大野木の痛恨のミスは製造番号 **1522** を書き落としてしまったことである。筆写者不詳本では、**1522** を第五回内国勸業博覧会（1903）への出品ピアノと説明しているが（現在、東京都港区立郷土歴史館所蔵のグランドピアノ）、大野木本 A では（大野木本 B でも）**1522** が抜けてしまったので、その一つ前の **1517** に対する説明になってしまった。これは明らかに誤りである。

③ 大野木本 B 「山葉直吉手帳より一中谷孝男氏メモ写一」

大野木吉兵衛が、大野木本 A に基づいて和文タイプを用いて活字化した原稿（コクヨのレポート用紙 8 枚）を、平野正裕氏が複写機でコピーしたもの。したがって、内容的には大野木本 A とほぼ同一であるが、微妙な異同はあり、大野木本 B が清書と考えられる。製造番号は、明治 37 年（1904）8 月以降は省略されている。末尾に「中谷氏のメモ」を含む。**1522** の欠落も踏襲。

実は、大野木本 B と同じものが浜松市博物館の大橋ピアノ資料（ピアノ技術者、大橋幡岩・巖が残した資料）にも含まれている。手元にある大野木 B もコピー機による複写物なので、どちらが元なのか、この 2 つを比較するだけでは見当がつかないが、大野木本 A に基づいて大野木本 B が作成された経緯から、大野木本 B のコピーが大橋に渡ったと考えられる。

p. 1～3：冒頭文<sup>17</sup>、明治 37 年 6～7 月製造番号、半期毎の製造高

p. 3～6：「製造出荷其他参考控」主に明治 36 年以前（無番ピアノ、カメンモデル等）

p. 6～7：「備忘」明治 33～39 年の製造高、明治 40 年の値段改正と改正前の値段

p. 7～8：「明治 40 年 4 月」のエピソード、「中谷氏のメモ」

④ 国立音楽大学所蔵本「製造出荷控 山葉直吉先生の手記寫し」

レポート用紙 7 頁、やや乱雑な手書をコピー機によって複写したもの。筆写者は不明だが、国立音楽大学楽器学資料館に保管されていたものなので、国立音楽大学所蔵本とする<sup>18</sup>。

① ② ③にはある冒頭の文章はまったく存在せず、製造番号は明治 37 年（1904）6～12 月は記されているが、明治 38 年（1905）以降は半期毎に「# **1575～1592**」「# **1593～1636**」のように略記。また、p. 5 には、

---

<sup>17</sup> 大野木本 B の冒頭の文章は「ピアノは始め研究のために製作していたから、会社は台帳を作らなかった。私が念のためにメモをとった。明治 40 年に転記したもので、「頗不正確ナ事ハ免レズ。」とあり、ほぼ大野木本 A と同じである。

<sup>18</sup> 国立音楽大学楽器学資料館所蔵の日楽アップライトピアノ **1003** に付随する資料「調律科資料コピー」として、1998 年付で保管されている。

日本楽器会社は明治 30 年創立されたがそれ以前明治 21 年 3 月“山葉楽器製造所”の設立が最初である。当初は風琴（オルガン）製作が主でありピアノの組立は二台ほどが記録にある（製番なし）

という、①～③にはない文章が挟まれている。

その次には、「製造出荷其他参考控」という項目はないが、主に明治 36 年（1903）以前のピアノの型番や製造番号（カメンモデル **1001** やベビーグランド **1514** など）が記されており、その最後には、②と③では欠落している製造番号 **1522**（「大阪天王寺、第五回内国勸業博覧会に出品」と説明あり）も存在する。つまり、②や③を参照して作成された写本ではない。

「備忘」や明治 40 年 4 月のエピソード、「中谷氏ノ memo」も含まれていないので、正確な複本を作ろうとする意識は薄く、筆写者の関心に基づいた抜き書きに見える。中谷孝男は国立音楽大学の講師をつとめていたので、当然、中谷本と近い関係にあることを推測させるのだが<sup>19</sup>、情報量は少なく、重要度は低いと見做さざるを得ない。

p. 1～4：「製造出荷控」、明治 37 年 6～12 月の製造番号、半期毎の製造高

p. 5～7：〔タイトルはないが「製造出荷其他参考控」〕主に明治 36 年以前

この 国立音楽大学所蔵本の複写本（コピー機による）もあり（ヤマハ提供）、そこには「2000.9.29／国立音大訪問／中谷孝雄氏のメモ」<sup>20</sup>と手書きで追記されている。

以上のことから、①の筆写者不詳本が情報の質と量の両面において② ③ ④を凌駕し、「直吉メモ」の原本にかなり近いと思われる。そうであれば、ひょっとするとこの筆写者不詳本こそが中谷花子によって筆写された中谷本であるように思えなくもない。しかも、大野木本 A には「中谷氏からの再写」、大野木本 B には「山葉直吉手帳より一中谷孝男氏メモ写一」とあり、中谷本を底本としていることをはっきりと述べている。ところが、筆写者不詳本には「之ハ山葉直吉氏ヨリ拝借転記セルモノナリ」とあるだけで、「中谷」の名前がない。つまり、筆写者不詳本は、中谷本ではなく、「直吉メモ」原本を写したのなら、その筆写者の有力な候補として、中谷花子の名前が浮上してくる。しかし、残念ながら中谷花子ではないようだ。それは明治 40 年 4 月のエピソードの異同から明らかである。

大野木本 A（大野木吉兵衛の取材ノート）の該当箇所は、「米国 St. Louis」で始まるがこれを「米国 Steinway」の誤読とする（注 16 参照）。そうすると、大野木が参照した中谷本にはアルファベット表記で「Steinway」と記されているはずだが、筆写者不詳本の当該

<sup>19</sup> 国立音楽大学所蔵本のオリジナルは別科調律専修にあったと思われるが現在は不明。

<sup>20</sup> 「中谷孝雄」の「雄」はママ。



箇所はカタカナ表記の「ステンウェー」なのである。このカタカナを「St. Louis」と読むとは思えない。仮に、カタカナの「ステンウェー」を「St. Louis」と誤記したとしても、中谷本に存在する「中谷氏ノ memo」（注 13 参照）が、筆写者不詳本には存在しないので、やはり中谷本と看做すことは難しい<sup>21</sup>。

おそらく大野木吉兵衛は（大野木の前に手にしたと思われる檜山陸郎も）<sup>22</sup>、この筆写者不詳本を誰が作ったか、その由来を知っていたのではないだろうか。しかし、すでに故人となってしまった現在、筆写者が誰であることを明らかにすることができないでいる。識者の教示を乞いたい。

---

<sup>21</sup> もちろん、筆写者不詳本を機械複写した際に意図的に「中谷氏ノ memo」を省いたとか、機械複写による複製本が作成された後に、中谷本に「中谷氏ノ memo」が追記されたなら、中谷本＝筆写者不詳本の可能性もでてくるが、やや無理があるように思える。現時点では、中谷花子以外に原本を写した人物は確認されていないので、筆写者不詳本はやはり中谷本の写本の一つとするしかないようだ。

<sup>22</sup> 本稿の最初の引用文で、檜山は「しかし現存の「山葉直吉メモ」は、その原本ではなくて、後に中谷孝男（一八九三～一九七七）夫人が転記したもの」（下線引用者）と述べており、その時、檜山が筆写者不詳本を手にしていたのなら、檜山はこれを中谷本と認識していたのかもしれない。だが、やはりここには「中谷 memo」がないことから、ただちにそう断定することは躊躇せざるを得ない。

#### 4. 筆者不詳「ピアノ製造出荷考」解説

p. 1～18

全体の約8割を占める p. 1～18 は、明治37年（1904）6月から明治40年（1907）12月までに製造されたピアノについての記録である。「壺号」「弍号」「参号」「四号」「五号」はアップライトの型番、「グランド壺号」等は、グランドピアノの型番を示している<sup>23</sup>。

製造番号は **1541** から **1851** まで、約300台がおおむね昇順で並んでいるが、完成してから製造番号を与えるわけではないため多少前後することもある<sup>24</sup>。また、製造時期・型番の異なるピアノに同じ製造番号が与えられている記述が複数あるが、どちらの数字が誤っているのかは判断できない（**1589**、**1637** など）<sup>25</sup>。欠けている製造番号（**1022**、**1709**、**1792** など）についても、その製造番号のピアノが存在しないのか、単に記載漏れなのかもやはり一概には言えない。だが、ヤマハ株式会社の企業ミュージアム「イノベーションロード」（浜松市中央区）が所蔵している **1022** のグランドピアノのように、存在を確認できるピアノもある。

また、半期ごとに各型番のそれぞれの製造台数×単価を合計した金額（製造高）が記されている。ただし、単純な計算ミスもある。

p. 1：冒頭の文章

ピアノ之製造ハ最初山葉社長ニヨリ創意せられ明治卅三年頃より着手したるもピアノは最初研究的ノ製造なるが故ニ会社として別ニ台帳なるものなき為自分が最初より社長より尋ねられ時の便ならすめぬ為ニ手帳へ控エ置きしものよりして、昭和六年否明治四拾年此帳へ轉記せしなり依テ頗不正確な事ハ免れず

p. 1：**1547** は、「製造出荷其他参考控」（p. 20）にも「グランド A 壺号」として記載。

p. 1：**1548** は、「製造出荷其他参考控」（p. 20）にも「グランド A 壺号」として記載。

p. 2：**1552** の「梨地塗り」はピアノの漆塗装の一種。

p. 3：明治37年下半期製造高には明治37年6月分は含まれていない。

p. 3：「300/350/400/500」は異なる筆跡なので別人の書き込みか。

p. 4：明治39年5月のアップライト「弍号」（p. 9）にも **1589** を付与。

---

<sup>23</sup> これらの型番は当時の定価表などからも確認できるが、「エス壺号」など定価表では確認できないものもあり、直吉もしくは社内だけの呼称も含まれている可能性がある。冒頭の文章にも「頗不正確な事ハ免れず」とあるとおり、不正確な記述も多くあることから、日楽～ヤマハでは正式な記録として残されなかったのかもしれない。

<sup>24</sup> たとえば、明治38年（1905）9月に製造されたピアノに **1597** と **1599**（どちらもアップライト「壺号」）があり、**1598** は抜けているので製造されなかったように見える。しかし、2か月後の同年11月に **1598** は記載されている（**1598** はアップライト「五号」なので、完成まで少し時間がかかったのだろう）。

<sup>25</sup> 他に、**1637**、**1688**、**1707**、**1751**、**1790**、**1821** が重複している。

- p. 4 : **1590** は、「エス壺号」「米国式」で 500 円。「壺号」より 200 円高い。
- p. 6 : 明治 38 年 11 月「金参千五百円」は明らかなミス。3,100 円。
- p. 6 : 明治 39 年 2 月のアップライト「壺号」(p. 7) にも **1637** を付与。
- p. 7 : **1628** に別人の筆跡で「昭和 30 年■氏修理」(■は判読不能)とあり、昭和 30 年には現存したピアノか。
- p. 7 : 明治 38 年下半期製造高「壺号 卅一台 金参、参〇〇円」は明らかなミス。9,300 円。それゆえ、「計四拾五台 金九、二五〇円也」は 15,250 円になる。
- p. 7 : 「明治卅九年度弐月 金五、〇五〇円」は明らかなミス (5,100 円)。
- p. 7 : 明治 38 年 12 月のアップライト「壺号 A」(p. 6) にも **1637** を付与。
- p. 8 : 「九六」: **1696** としたが、明治 40 年 9 月のアップライト「弐号」**1696** と重複する。
- p. 9 : 明治 38 年 5 月のアップライト「弐号」(p. 4) にも **1589** を付与。
- p. 9 : 明治 39 年 9 月の「グランド弐号」(p. 10) にも **1688** を付与。
- p. 10 : 「都合ニ依テ後デ増加ス」は、**1688** についての説明ではなく明治 39 年 9 月の合計「金弐千七百五十円」についての説明か。
- p. 10 : 明治 39 年 6 月の「グランド A 壺号」(p. 14) にも **1688** 付与。
- p. 10 : 明治 39 年 2 月の「エス壺号 九六」を **1696** とすると明治 39 年 9 月の **1696** (p. 16) と重複してしまう。
- p. 12 : 明治 40 年 3 月の「グランド壺号」(p. 14) にも **1707** を付与。
- p. 13 : 「明治四拾年 壺月 金五千五百九十円」は、明らかなミス (4,840 円)。
- p. 14 : 明治 40 年 2 月のアップライト「壺号」と同年 3 月のアップライト「壺号」に **1751** を付与。
- p. 14 : 明治 39 年 12 月の「グランド壺号」(p. 12) にも **1707** を付与。
- p. 14 : 「四月 金五千三百円」は、明らかなミス (5,200 円)。
- p. 15 : 5 月の「特製参号」4 台ではなく、特製 3 号 3 台と 3 号 1 台にしなければ計算が合わない。型番を間違えたか。
- p. 15 : 明治 40 年 5 月アップライト「弐号」と同年 6 月「立ノ弐号」に **1790** を付与。
- p. 15 : **1809** の「ステンウェー模造モデル」は「上記ノモノヲ模造セシモノ」で、「上記ノ」ピアノは、「ステンウェー小形グランドピアノ (一二四一二三)」(p. 21)、あるいは「米国ステインウエー会社ヨリ到着ノ小型グランドピアノ」(p. 23) を指すと思われる。
- p. 16 : 「明治四十年上半期製造高」の「壺号グランド 六台 金四、五〇〇円」は、5 台 (3,750 円)。1 台記入漏れ。
- p. 16 : 「明治四十年上半期製造高」の「計七十六台」は計 75 台、「金三三、四六〇円也」は 32,710 円になる。
- p. 16 : 明治 40 年 9 月の「グランド壺号」と同年 10 月のアップライト「壺号」に **1821** を付与。

p. 16 : **1829** 「是レハ自分仕上ナリ」

p. 16 : 欄外は別人の書き込み。

p. 17 : 「タメ塗り」 = 「溜め塗り」で、ピアノの漆塗装の一種。

p. 18～21

「製造出荷其他参考控」では、主に明治 36 年（1903）以前のピアノ、約 40 台についての記録が掲載されている。「立形小ピアノ 無番」（3 台）、「グランドピアノ 無番」、「小平台ベビーグランド」（5 台：製造番号 **1514**、**1515**、**1000**、**1520**、**1521**）、「カメンモデル立ピアノ」（製造番号 **1001** 以降）と続くが、この順序が何を意味するのか（時系列？）、直吉が思い出すままに記したのかは不明。明治 37～40 年（製造番号 **1541**～**1851**）が整然と並んでいたこととは対照的に欠けている製造番号も多く、当時の記録の少なさを反映しているとみられる。

p. 21 頁の下部には、ピアノ製造の参考とするため購入されたと思われる欧米のピアノが列挙されている。

p. 18 : 「グランドピアノ 無番 此ピアノハ共益商社養子トナル上山敬〔銈〕造氏ノ尽力」  
の上山銈造は白井銈造

p. 18 : 欄外は別人の書き込み。

p. 19 : 欄外は別人の書き込み。

p. 20 : 「一〇壺六」は、**1016** と判断したが、「一〇参六」に見えなくもない<sup>26</sup>。

p. 20 : 「三八番」、**1538** か<sup>27</sup>。

p. 20 : 「三九番」、**1539** か<sup>28</sup>。

p. 20 : 「四〇番」、**1540** か<sup>29</sup>。

p. 20 : p. 1 にも「グランド壺号」**1547** として記載。

p. 20 : p. 1 にも「グランド壺号」**1548** として記載。

p. 20 : 「15-① → M.35/11」 「永井荷風」は、別人の書き込み（檜山陸郎か）。

p. 20 : 「再調ノ上納退下セリ」は、大野木本 A、大野木本 B では「再調ノ上上納退下セリ」となっている。

p. 21 : 「ステンウェー小形グランドピアノ（一二四一二三）<sup>30</sup>明治四十年四月二十七日日本

---

<sup>26</sup> p.19 : 欄外に「1000 台は **1036** で終る」「M.36/11」と書き込んだ人物は、これを **1036** と判断しているが、大野木本 A、大野木本 B は **1016**。

<sup>27</sup> 三浦『ヤマハ草創譜』（p. 51）は **1038** としている。

<sup>28</sup> 三浦『ヤマハ草創譜』（p. 51）は **1039** としている。

<sup>29</sup> 三浦『ヤマハ草創譜』（p. 51）は **1040** としている。

<sup>30</sup> スタインウェイの製造番号 124123 のピアノは 1906 年製造。

社着スノ右ハ参考品トシテ買入レタルモノナリ 金一、五〇〇円<sup>31</sup>

「グランドピアノ（六八七〇番）英国製コンサートグランドニシテ極ク古キモノニテ金四百五十円ナリ

「立形ピアノ（二〇三四五番）米国カメン会社製品ニシテ当社見本ニ使用セシモノナリ金六百二十円也

「小形アツプライト（二二二番）仏国製極ク古キモノニテ外装部ハローズウッド使用セラレアリノ内部ハ古キタメ悪シ金七十円

「形ヲ附シタルハピアノ其他ト称シテ棚卸勘定ノ時一般製品トハ別扱ヒタルモンナリ

p. 22 頁

「備忘」には、明治 33 年（1900）から 39 年（1906）までの年ごとの製造高（明治 40 年は含まれていない）、明治 40 年（1907）1 月 1 日に改正した各型番のピアノの単価と、それまでの単価が記されている。

p. 22：「右ノ正確ナル書類ナキ為自分ノ想起ナリ」

p. 22：明治 37 年は、26 台、12,250 円か。

p. 22：明治 38 年は、6 台、21,850 円か

p. 22：明治 39 年は、90 台、35,250 円か。

p. 23 頁

「明治四拾年四月」のエピソード

明治四拾年四月

米国ステンウェー会社ヨリ到着ノ小型グランドピアノ<sup>32</sup>ハ平台ピアノ改良ノ資ニ供スル目的ニテ山葉社長ガ特ニ買入レ與ヘラタルモノニシテ同品ハ直チニ解体シテ大ニ得ル所アリテ自分ハ早速之レガ模造ノ準備ニ取掛リ一意専心同一ナル品質ノモノヲ製作スベク努力シ漸クニシテヤ、良好ナルモノ出来上リシ為山葉社長モ非常ニ喜ビタリ而シテ東京市共益商社ヨリ、グランドピアノノ注文式台アリシ為此ノ品ヲ出荷シテ式台注文ノ中ノ一台<sup>33</sup>ニ当テル様命セラレシ為出荷シテ先方ヘ別状ナク到着セラレタル所從

---

<sup>31</sup> 「右ハ」という表現から「直吉メモ」原本は、縦書きであったことが推測される（漢数字表記も縦書きと相性が良い）が、p. 15 には「上記ノモノヲ」という表現もある。

<sup>32</sup> このピアノは「ステンウェー小形グランドピアノ（一二四一二三）明治四十年四月二十七日本社着」（p. 21）で、1,500 円。

<sup>33</sup> このピアノは「ステンウェー模造モデル一八〇九 上記ノモノヲ模造セシモノ」（p. 15）で、

前ノ品ト品質及形状等相違シ居ルノデ、共益商社ヨリ注文品ト相違シタルモノヲ送り越サレテハ頗ル迷惑ニシテ殊ニ客先ニテハ定価七百五十円ノ代金ヲ前金デ預リアル事デ然ルニ会社ニテハ金一千円以上ノ品送リタルコトハ不都合モ甚ダシキ旨ヲ山葉社長ノ許へ付申越サレ山葉社長ハ非常ニ喜び右改良セル金七百五十円召ニ付値段ノ従前通りニ御賣捌願度キ事ヲ返信ニ際シ小生ヲ呼ビスノ如キ結果ヲ得タ事ハ製作上熱心ナル故ニシ此如キ苦情ヲ賣捌人ヨリ時々否連続的ニ申込ル、様努力續ケラレタシト山葉社長トシテカツテナキ喜びナリシ。

（完）

## 参考文献

磯部千司（編）『山葉寅楠翁』（1929）

大野木吉兵衛「日本楽器製造株式会社と山葉寅楠の企業者活動」『浜松商科短期大学研究論集』第九号（1966）p. 35～80.

大野木吉兵衛「浜松における洋楽器産業」浜松史跡調査顕彰会（編）『遠州産業文化史』（1977）p. 297～358.

中谷孝男『ピアノの技術と歴史』（音楽之友社 1965）

中谷孝男「ピアノの自主的生産が始まった頃」『楽器商報』1974年6月号、p. 115～117.

日本楽器製造株式会社（編）『社史』（1977）

檜山陸郎「ピアノものがたり」『ミュージックトレード』1981年7月号、p. 72～74.

檜山陸郎『洋琴ピアノものがたり』（芸術現代社 1986）

三浦啓市『ヤマハ草創譜—洋楽事始から昭和中期までの70年余をふりかえる』（按可社 2012）

三浦啓市『昭憲皇后のピアノ—ヤマハの加飾ピアノに伝統工芸の技を見る』（按可社 2023）

山葉直吉他「国産ピアノの創業とその発達を語る」（座談会、山葉直吉・鈴木政吉・鈴木米次郎・永井幸次・吉田信太・川上嘉市・吉田季三・刀原四郎・萩原貞司・多米忠・宮本錫五郎・村松静光）『音楽世界』8巻11号（1937）、p. 10～41.

横浜市歴史博物館・横浜開港資料館（編）『製造元祖横浜風琴ものがたり』（横浜市歴史博物館 2004）

## 附録資料

### 筆写者不詳「ピアノ製造出荷考」に基づく製造番号順の日楽ピアノ一覧（～明治40年）

- 筆写者不詳「ピアノ製造出荷考」（本稿では筆写者不詳本）に掲載されているピアノ約340台を製造番号順に並べた。ただし、製造年月は前後することがある。
- 製造年月が分らないものは空欄。また、製造年月か出荷年月かを判別できない場合もとりあえずは空欄としてある（当然、出荷年月より前に製造されている）。
- 筆写者不詳本に存在しない製造番号は記載していない（ただし、現存が確認されているピアノもある）。また、製造番号が3桁のピアノが存在することも確認されているが、筆写者不詳本には記載されていないので、ここには記載していない。
- P. 18に掲載されている「立形小ピアノ 無番」（3台）は省いた。
- 備考欄は「ピアノ製造出荷考」に記載されている説明文の翻刻。ただし、【   】は、奥中・木崎による注記。



附録資料：「ピアノ製造出荷考」に基づく製造番号順のピアノ一覧（～明治40年）

製造年月 yyyymmdd	製造年月 掲載表記	製造番号	型番 掲載表記	備考	掲載頁
		1000	平台ペビーグランド	明治三拾六年三月共益商社出荷	p.19
19000100	(卅三年一月)	1001	カメンモデル立ピアノ	(卅三年一月) 製番一〇〇〇ヲ附加セリノ之ハ山葉社長渡米シテ見本品及鉄骨及アクション等買入来リテ当社ニテ製造セリ	p.19
		1002	カメンモデル立ピアノ		p.19
		1003	カメンモデル立ピアノ	【国立音楽大学楽器学資料館所蔵.88鍵】	p.19
		1004	カメンモデル立ピアノ		p.19
		1005	カメンモデル立ピアノ		p.19
		1006	カメンモデル立ピアノ		p.19
		1007	カメンモデル立ピアノ		p.19
		1008	カメンモデル立ピアノ		p.19
		1009	カメンモデル立ピアノ		p.19
		1010	カメンモデル立ピアノ	【長野県飯田高等学校同窓会所蔵.88鍵】	p.19
		1011	カメンモデル立ピアノ		p.19
		1012	カメンモデル立ピアノ	卅六年十一月 共益商社へ発送	p.19
		1016	カメンモデル参号 (改称ス)		p.20
		1023	カメンモデル参号 (改称ス)	卅六年十月	p.20
		1024	カメンモデル参号 (改称ス)	卅六年十一月	p.20
		1500	グランドピアノ 無番	此ピアノハ共益商社養子トナル上山敬造氏ノ尽力ニヨリ米国ヨリ鉄骨アクション響板及附属全部ヲ取寄セ製造シタルコンサートグランドニシテ明治卅四年秋田県師範学校へ共益商社ヨリ売渡セリ (製番ハ一.五〇〇ヲ附加セリ)	p.18
19021100	(卅五年十一月)	1512	グランドA番号	卅六年三月 三木社へ発送ス	p.20
19030300	(卅六年十一月)	1513	グランドA番号	卅九年三月 三木社へ送り姫路高等女学校納入	p.20
		1514	平台ペビーグランド	明治参拾五年十一月共益商社出荷	p.19
		1515	平台ペビーグランド		p.19
		1516	カメンモデル参号 (改称ス)	卅六年四月 三木社ヨリ戻リ	p.20
		1517	グランドA番号	三十七年五月静岡市高等女学校へ納入自分出頭	p.21
		1518	カメンモデル参号 (改称ス)	卅六年六月 共益社へ出荷ス	p.20
19030600	三拾六年六月	1520	平台ペビーグランド	三拾六年六月、参拾六年八月共益商社出荷【前者を製造時期と判断】	p.19
19030700	三拾六年七月	1521	平台ペビーグランド	三拾六年七月、卅七年十二月三木商社へ出荷【前者を製造時期と判断】	p.19
19030500	三十六年五月	1522	グランドA番号	明治三十六年三月開会ノ於ケル大阪市天王寺第五回内国勸業博覧会出品トシテ三十五年九月ヨリ着手翌年三月出来出品セリ右ピアノハ出品中天皇陛下皇太后陛下御行幸セラレ其節ニ御買上ノ光栄ヲ賜ハリ明治三十六年九月吉日宮内省ニ自分出頭シ解荷組立シテ再調ノ上納退下セリ 【港区立郷土歴史館所蔵】	p.21
19031000	三十六年十月	1525	グランドA番号	三十七年五月静岡市高等女学校へ納入自分出頭	p.21
19031100	(卅六年十一月)	1526	グランドA番号	卅八年五月共益社へ出荷	p.20
		1527	カメンモデル立ピアノ	卅六年十一月	p.20
		1528	カメンモデル立ピアノ	卅六年十一月	p.20
		1529	カメンモデル立ピアノ	卅八年三月共益社へ発送 芝唱歌会へ納入	p.19
		1530	カメンモデル立ピアノ	卅六年十一月	p.19
		1532	カメンモデル立ピアノ	象牙張り 卅六年十二月	p.19
		1535	カメンモデル立ピアノ	卅六年十二月 共益商社へ発送	p.19
19031200	三十六年十二月	1536	グランドA番号	三十七年二月三木社へ	p.20
		1537	グランドA番号	三十七年一月発送 米国立セントルイス市万国博覧会出品米人ニ買上ラル	p.20
		1538	カメンモデル 参号 (改称ス)	卅七年三月 象牙張り【記載は「三八番」】	p.20
		1539	カメンモデル 参号 (改称ス)	卅七年三月 象牙張り【記載は「三九番」】	p.20
		1540	カメンモデル 参号 (改称ス)	卅七年三月 象牙張り【記載は「四〇番」】	p.20
19040600	明治三十七年六月	1541	番号		p.1
19040600	明治三十七年六月	1542	番号		p.1
19040600	明治三十七年六月	1543	番号		p.1
19040600	明治三十七年六月	1544	番号		p.1
19040600	明治三十七年六月	1545	参号		p.1
19040600	明治三十七年六月	1546	参号		p.1
19040600	明治三十七年六月	1547	グランド番号		p.1
19040600	(卅七年六月)	1547	グランドA番号	卅七年十二月共益商社へ発送ス	p.20
19040600	明治三十七年六月	1548	グランド番号		p.1
19040600	(卅七年六月)	1548	グランドA番号	卅八年一月共益商社へ発送ス	p.20
19040700	明治三十七年七月	1549	四号		p.1
19040800	明治三十七年八月	1550	参号		p.1
19040800	明治三十七年八月	1551	番号		p.1

製造年月 yyymmdd	製造年月 掲載表記	製造番号	型番 掲載表記	備考	掲載頁
19040900	明治三十七年九月	1552	四号	梨地塗り	p.2
19040900	明治三十七年九月	1553	参号		p.2
19040900	明治三十七年九月	1554	志号		p.2
19040900	明治三十七年九月	1555	志号		p.2
19041000	明治三十七年拾月	1556	貳号		p.2
19041000	明治三十七年拾月	1557	参号		p.2
19041000	明治三十七年拾月	1558	志号		p.2
19041100	明治三十七年拾壹月	1559	志号		p.2
19041100	明治三十七年拾壹月	1560	志号		p.2
19041100	明治三十七年拾壹月	1561	参号		p.2
19041100	明治三十七年拾壹月	1562	貳号		p.2
19041100	明治三十七年拾壹月	1563	志号		p.2
19041100	明治三十七年拾壹月	1564	参号		p.2
19041100	明治三十七年拾壹月	1565	志号		p.2
19041200	明治三十七年拾貳月	1566	志号		p.2
19041200	明治三十七年拾貳月	1567	志号		p.2
19041200	明治三十七年拾貳月	1568	貳号		p.2
19041200	明治三十七年拾貳月	1569	志号		p.2
19041200	明治三十七年拾貳月	1570	志号		p.3
19041200	明治三十七年拾貳月	1571	志号		p.3
19041200	明治三十七年拾貳月	1572	志号		p.3
19041200	明治三十七年拾貳月	1573	志号		p.3
19041200	明治三十七年拾貳月	1574	志号		p.3
19050100	明治三十八年壹月	1575	貳号		p.3
19050100	明治三十八年壹月	1576	志号		p.3
19050200	明治三十八年貳月	1577	志号		p.3
19050200	明治三十八年貳月	1578	志号		p.3
19050300	明治三十八年参月	1579	貳号		p.3
19050300	明治三十八年参月	1580	志号		p.3
19050400	明治三十八年四月	1581	参号		p.3
19050400	明治三十八年四月	1582	志号		p.4
19050400	明治三十八年四月	1583	志号		p.4
19050400	明治三十八年四月	1584	四号	梨地塗り	p.4
19050400	明治三十八年四月	1585	貳号		p.4
19050500	明治三十八年五月	1586	志号		p.4
19050500	明治三十八年五月	1587	志号		p.4
19050500	明治三十八年五月	1588	志号		p.4
19050500	明治三十八年五月	1589	貳号		p.4
19060500	明治三十九年五月	1589	エス志号		p.9
19050500	明治三十八年五月	1590	エス志号	米国式	p.4
19050500	明治三十八年五月	1591	参号		p.4
19050600	明治三十八年六月	1592	グランド志号		p.4
19050700	明治参拾八年七月	1593	グランド志号		p.5
19050900	明治参拾八年九月	1594	志号		p.5
19050900	明治参拾八年九月	1595	志号		p.5
19050900	明治参拾八年九月	1596	志号		p.5
19050900	明治参拾八年九月	1597	志号		p.5
19051100	明治参拾八年拾壹月	1598	五号		p.6
19050900	明治参拾八年九月	1599	志号		p.5
19050900	明治参拾八年九月	1600	四号	梨地塗り	p.5
19050900	明治参拾八年九月	1601	志号		p.5
19050900	明治参拾八年九月	1602	志号		p.5
19050900	明治参拾八年九月	1603	志号		p.5
19050900	明治参拾八年九月	1604	志号		p.5
19051000	明治参拾八年拾月	1605	志号		p.5
19051000	明治参拾八年拾月	1606	志号		p.5
19051000	明治参拾八年拾月	1607	志号		p.5
19051000	明治参拾八年拾月	1608	志号		p.5
19051000	明治参拾八年拾月	1609	志号		p.5
19051000	明治参拾八年拾月	1610	貳号		p.5
19051000	明治参拾八年拾月	1611	貳号		p.5

「直吉メモ」諸写本の比較研究（2024）

製造年月 yyyymmdd	製造年月 掲載表記	製造番号	型番 掲載表記	備考	掲載頁
19051000	明治参拾八年拾月	1612	巻号		p.5
19051000	明治参拾八年拾月	1613	巻号		p.6
19051100	明治参拾八年拾壹月	1614	巻号		p.6
19051100	明治参拾八年拾壹月	1615	巻号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1616	巻号		p.6
19051100	明治参拾八年拾壹月	1617	巻号		p.6
19051100	明治参拾八年拾壹月	1618	特別参号	金四百五十円ノ分	p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1619	参号		p.7
19051100	明治参拾八年拾壹月	1620	巻号		p.6
19051100	明治参拾八年拾壹月	1621	巻号		p.6
19051100	明治参拾八年拾壹月	1622	巻号		p.6
19051100	明治参拾八年拾壹月	1623	巻号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1624	巻号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1625	巻号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1626	巻号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1627	参号		p.7
19051200	明治参拾八年拾貳月	1628	参号	○昭和30年■式修理【別人によ加筆】	p.7
19051200	明治参拾八年拾貳月	1629	貳号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1630	貳号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1631	貳号		p.7
19051200	明治参拾八年拾貳月	1632	巻号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1633	巻号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1634	参号		p.7
19051200	明治参拾八年拾貳月	1635	巻号		p.6
19051200	明治参拾八年拾貳月	1636	参号		p.7
19051200	明治参拾八年拾貳月	1637	巻号A		p.6
19060200	明治卅九年貳月	1637	巻号		p.7
19060200	明治卅九年貳月	1638	巻号		p.7
19060200	明治卅九年貳月	1639	巻号		p.7
19060200	明治卅九年貳月	1640	巻号		p.7
19060200	明治卅九年貳月	1641	貳号		p.8
19060200	明治卅九年貳月	1642	貳号		p.8
19060200	明治卅九年貳月	1643	参号		p.8
19060200	明治卅九年貳月	1644	参号		p.8
19060200	明治卅九年貳月	1645	貳号		p.8
19060200	明治卅九年貳月	1646	参号		p.8
19060200	明治卅九年貳月	1647	五号	五五〇円	p.8
19060200	明治卅九年貳月	1648	巻号		p.7
19060200	明治卅九年貳月	1649	巻号		p.7
19060300	明治卅九年参月	1650	巻号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1651	巻号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1652	巻号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1653	巻号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1654	巻号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1655	グランド巻号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1656	巻号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1657	巻号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1658	参号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1659	参号		p.8
19060400	明治卅九年四月	1660	参号		p.9
19060400	明治卅九年四月	1661	参号		p.9
19060400	明治卅九年四月	1662	参号		p.9
19060400	明治卅九年四月	1663	参号		p.9
19060300	明治卅九年参月	1664	貳号		p.8
19060300	明治卅九年参月	1665	貳号		p.8
19060600	明治卅九年六月	1666	巻号		p.9
19060600	明治卅九年六月	1667	巻号		p.9
19060400	明治卅九年四月	1668	貳号		p.9
19060400	明治卅九年四月	1669	貳号		p.9
19060400	明治卅九年四月	1670	貳号		p.9
19060400	明治卅九年四月	1671	貳号		p.9

製造年月 yyyymmdd	製造年月 掲載表記	製造番号	型番 掲載表記	備考	掲載頁
19060600	明治廿九年六月	1672	式号		p.9
19060600	明治廿九年六月	1673	式号		p.9
19060600	明治廿九年六月	1674	グランド老号		p.9
19060600	明治廿九年六月	1675	老号		p.9
19060800	明治廿九年八月	1676	老号		p.10
19060900	明治廿九年九月	1677	老号		p.10
19061000	明治廿九年十月	1678	老号		p.11
19060900	明治廿九年九月	1679	老号		p.10
19060700	明治廿九年七月	1680	式号		p.10
19060600	明治廿九年六月	1681	参号		p.9
19061000	明治廿九年十月	1682	老号		p.11
19061000	明治廿九年十月	1683	老号		p.11
19061000	明治廿九年十月	1684	老号		p.11
19061000	明治廿九年十月	1685	老号		p.11
19061000	明治廿九年十月	1686	老号		p.11
19060700	明治廿九年七月	1687	式号		p.10
19060600	明治廿九年六月	1688	A老号		p.9
19060900	明治廿九年九月	1688	グランド式号		p.10
19060600	明治廿九年六月	1689	参号		p.9
19060800	明治廿九年八月	1690	参号		p.10
19060900	明治廿九年九月	1691	参号		p.10
19060900	明治廿九年九月	1692	参号		p.10
19061000	明治廿九年十月	1693	老号		p.11
19061000	明治廿九年十月	1694	参号		p.11
19061000	明治廿九年十月	1695	老号		p.11
19060200	明治廿九年貳月	1696	エス老号	五〇〇円【製造番号の記載は「九六」】	p.8
19060900	明治廿九年九月	1696	式号		p.10
19061000	明治廿九年十月	1697	式号		p.11
19061100	明治廿九年十一月	1699	老号		p.11
19061000	明治廿九年十月	1700	式号		p.11
19061100	明治廿九年十一月	1701	老号		p.11
19061000	明治廿九年十月	1702	老号		p.11
19061000	明治廿九年十月	1703	老号		p.11
19061100	明治廿九年十一月	1704	老号		p.11
19060800	明治廿九年八月	1705	四号		p.10
19061200	明治廿九年十二月	1707	グランド老号		p.12
19070300	明治四拾年参月	1707	グランド参号		p.14
19061200	明治廿九年十二月	1708	グランド参号		p.12
19061100	明治廿九年十一月	1710	改正五号		p.12
19061100	明治廿九年十一月	1711	改正五号		p.12
19061100	明治廿九年十一月	1712	五号		p.11
19061100	明治廿九年十一月	1713	五号		p.12
19070300	明治四拾年参月	1714	四号		p.14
19070600	明治四拾年六月	1715	四号		p.15
19061200	明治廿九年十二月	1716	参号		p.12
19061100	明治廿九年十一月	1717	式号		p.11
19061200	明治廿九年十二月	1718	老号		p.12
19061100	明治廿九年十一月	1719	老号		p.11
19061100	明治廿九年十一月	1720	式号		p.11
19061200	明治廿九年十二月	1721	参号		p.12
19061200	明治廿九年十二月	1722	参号		p.12
19061200	明治廿九年十二月	1723	参号		p.12
19061200	明治廿九年十二月	1724	参号		p.12
19061200	明治廿九年十二月	1725	老号		p.12
19061200	明治廿九年十二月	1726	老号		p.12
19061200	明治廿九年十二月	1727	式号		p.12
19061200	明治廿九年十二月	1728	式号		p.12
19070100	明治四拾年壹月	1729	式号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1730	式号		p.13
19070300	明治四拾年参月	1731	式号		p.14
19070100	明治四拾年壹月	1732	式号		p.13

「直吉メモ」諸写本の比較研究（2024）

製造年月 yyyymmdd	製造年月 掲載表記	製造番号	型番 掲載表記	備考	掲載頁
19070100	明治四拾年壹月	1733	壺号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1734	壺号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1735	参号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1736	参号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1737	参号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1738	参号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1739	壺号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1740	壺号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1741	壺号		p.13
19070100	明治四拾年壹月	1742	壺号		p.13
19070200	明治四拾年貳月	1743	参号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1744	参号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1745	参号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1746	参号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1747	貳号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1748	壺号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1749	G グランド貳号	【奈良女子大学所蔵（百年ピアノ）】	p.14
19070200	明治四拾年貳月	1750	壺号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1751	壺号		p.14
19070300	明治四拾年参月	1751	壺号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1752	貳号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1753	貳号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1754	貳号		p.14
19070400	明治四拾年四月	1755	壺号		p.14
19070300	明治四拾年参月	1756	参号		p.14
19070300	明治四拾年参月	1757	壺号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1758	参号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1759	壺号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1760	貳号		p.14
19070200	明治四拾年貳月	1761	貳号		p.14
19070700	明治四十年七月	1762	参号		p.16
19070300	明治四拾年参月	1764	貳号		p.14
19070400	明治四拾年四月	1765	参号		p.15
19070400	明治四拾年四月	1766	壺号		p.14
19070400	明治四拾年四月	1767	参号		p.15
19070400	明治四拾年四月	1768	壺号		p.14
19070300	明治四拾年参月	1769	参号		p.14
19070300	明治四拾年参月	1770	参号		p.14
19070400	明治四拾年四月	1771	参号		p.15
19070400	明治四拾年四月	1772	参号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1773	壺号		p.15
19070400	明治四拾年四月	1774	壺号		p.14
19070400	明治四拾年四月	1775	壺号		p.14
19070500	明治四拾年五月	1776	特製参号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1777	特製参号		p.15
19070400	明治四拾年四月	1778	G グランド壺号		p.15
19070400	明治四拾年四月	1779	G グランド壺号		p.15
19070400	明治四拾年四月	1780	壺号		p.14
19070500	明治四拾年五月	1781	壺号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1782	壺号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1783	壺号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1784	特製参号	音楽学校注文品	p.15
19070500	明治四拾年五月	1785	特製参号		p.15
19070600	明治四拾年六月	1786	グランド壺号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1787	貳号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1788	貳号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1789	貳号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1790	貳号		p.15
19070600	明治四拾年六月	1790	立ノ貳号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1791	貳号		p.15
19070500	明治四拾年五月	1793	貳号		p.15

製造年月 yyyymmdd	製造年月 掲載表記	製造番号	型番 掲載表記	備考	掲載頁
19071000	明治四十年拾月	1794	式号		p.16
19071000	明治四十年拾月	1795	式号		p.16
19071000	明治四十年拾月	1796	式号		p.16
19071000	明治四十年拾月	1797	式号		p.16
19070600	明治四拾年六月	1798	グランド番号		p.15
19071000	明治四十年拾月	1799	式号		p.16
19071100	明治四十年拾壹月	1800	式号		p.17
19070600	明治四拾年六月	1801	G 参号		p.15
19070600	明治四拾年六月	1802	G 参号		p.15
19070600	明治四拾年六月	1803	G 参号		p.15
19070600	明治四拾年六月	1804	グランド式号		p.15
19071000	明治四十年拾月	1805	番号		p.16
19071000	明治四十年拾月	1806	番号		p.16
19070300	明治四拾年参月	1807	番号		p.14
19070300	明治四拾年参月	1808	番号		p.14
19070600	明治四拾年六月	1809	ステンウエー模造モデル	上記ノモノヲ模造セシモノ	p.15
19071200	明治四十年拾貳月	1810	G グランド式号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1811	番号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1812	番号		p.17
19071000	明治四十年拾月	1813	番号		p.16
19071000	明治四十年拾月	1814	番号		p.16
19071100	明治四十年拾壹月	1815	番号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1816	番号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1817	番号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1818	番号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1819	四号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1820	四号		p.17
19070900	明治四十年九月	1821	グランド番号		p.16
19071000	明治四十年拾月	1821	番号		p.16
19071100	明治四十年拾壹月	1822	式号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1825	グランド番号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1826	参号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1827	参号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1828	式号		p.17
19071000	明治四十年拾月	1829	番号	是レハ自分仕上ナリ	p.16
19071100	明治四十年拾壹月	1830	参号	号外ニシテ内容ハステンウエーモデル外部ハ三号白耳義アントローブドワイックエンドビータセン注文分	p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1831	参号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1832	参号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1836	式号		p.17
19071100	明治四十年拾壹月	1837	タメ塗り 番号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1842	参号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1843	参号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1844	五号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1847	五号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1849	五号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1850	参号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1851	五号		p.17
19071200	明治四十年拾貳月	1860	特製番号	之レハ益田孝氏ノ注文オーク材定価金四百円椅子付	p.17